

第1章 交流活動モデルメニューの作成にあたって

1 趣旨

遊びを中心とした幼稚園、保育所（園）の生活から、教科学習が中心となる小学校の生活へのなめらかな接続を図る必要があります。子どもの育ちや学びの連続性を確保する観点から、幼稚園、保育所（園）と小学校が、互いに保育や授業を参観し合ったり、交流したりすることを通して思いや目的を理解し合うことが大切です。

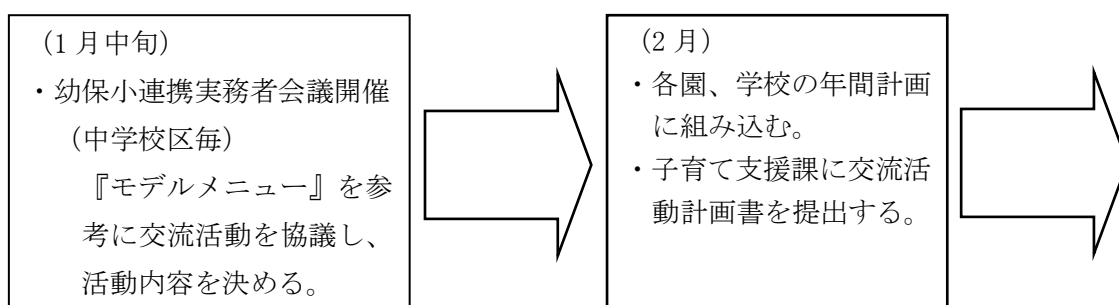
そこで、幼稚園・保育所（園）と小学校の相互のねらいや指導内容を踏まえ、幼稚園・保育所（園）と小学校の子ども同士、教職員間で活発な継続的な交流活動を行っていくために、モデルメニューを作成しました。

また、幼稚園、保育所（園）は、いずれも幼児期の子どもを対象として、教育・保育を行っていく施設です。幼稚園と保育所（園）とが連携することで、子どもの多様なかかわりや子どもの発達段階を踏まえたより充実した教育を行っていくため、子どもたち同士の触れ合う機会を設けるなど幼稚園と保育所（園）の活発な継続的な交流活動を行っていくために、モデルメニューを作成しました。

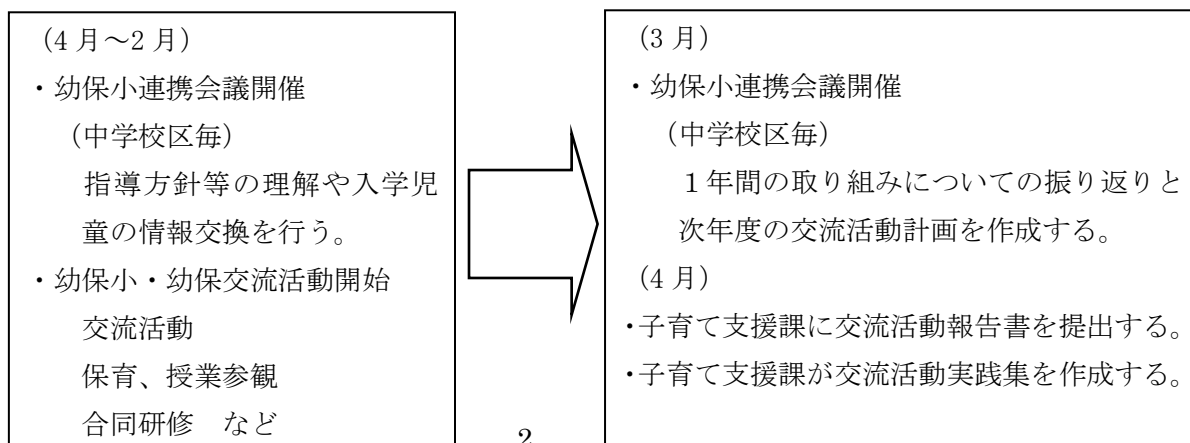
※ この「モデルメニュー」は、全て行わなければならないものではなく、モデルとして各施設間で実施するものを選んだり、独自の取組を考えるための参考としてもらうためのものです。

2 交流活動実施までの流れ

前年度



交流活動実施年度



3 交流活動の進め方

幼稚園・保育所（園）・小学校の互いの中に築かれた共通認識をもとに、交流活動中はもちろん、事前・事後においても協力した体制をとることにより、連携の取組を一層充実させましょう。

【事前】 効果的な指導のための協力した体制の確立を目指す

- ① 目標を明確化する。
- ② 学びや成果を見取る観点から関わりの手立てを具体化する。
- ③ 活動や環境構成を工夫する。
- ④ 効果的な役割分担を行う。
- ⑤ 意欲や意識付けや見通しを持たせる取組を行う。

【活動中】 異校種の子どもを意識して協力した指導を行う

- ① 交流活動を通して、幼児、児童の理解の場や、研修の場となるよう工夫する。
- ② 幼稚園・保育所（園）と小学校の双方の先生が協力した指導体制を工夫して実施する。
- ③ 教師の幼児・児童への意図的なかわり方を工夫する。
- ④ 幼児・児童の発達段階を意識した指導を行う。
- ⑤ 安全の確保に留意する。

【事後】 合同で振り返る場を設定する

- ① 交流活動での子ども様子を振り返る。
- ② 目標の達成についての評価を行う。
- ③ 次回の交流活動の見通しを持つ。